

かしわ会東京支部長より

かしわ会東京支部長 高橋洋司

謹啓 暑い夏もようやく終わり、朝夕は涼しく秋の到来を感じるこの頃ですが、東京北見会の皆様如何おすごしですか。

今年は3月11日東日本大震災・福島原発の事故で、日本は戦後最悪の危機状態にあります。

その中で、被災された方々は貴重な財産や愛する家族を無くしたにもかかわらず、震災前にはさほど意識は無かったと思いますが、被災者同士、強い「絆」で結ばれ懸命に復興に頑張っておられます。

私は8月5日から5日間、陸前高田市と仙台市にボランティア活動に行ってきました。

日本人として何かしてあげたいという気持ちもありましたので。

現地で感じたことは、被災者の皆様が、共通の辛い経験をした同志お互い助け合い、その中から芽生えた「絆」で結ばれ未来に向かって頑張っている姿でした。

東京北見会の皆様には、同じ北見という共通の故郷で育ち、青春時代を過

ごした「絆」があります。

今の日本は、この目に見えない精神的な「絆」が何か次第に薄らいできていく感じがするのは私だけででしょうか。

同郷出身の皆様が1年に一度の総会・懇親会の場で、是非この「絆」を確かめ、深めて頂きたいと存じます。

東京北見会の今後の益々のご発展と、会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

かしわ会東京支部長 高橋洋司

謹白



第15期生 同期生



北見の回転ずし「トリトン」スカイツリーに来年5月、道外初進出

北見の北一食品が道内で展開する回転ずし店「トリトン」が、来年5月22日開業予定の東京スカイツリーの商業施設、東京ソラマチに入ることが決まりました。トリトンの道外出店は初めて。

東京ソラマチは、スカイツリーに併設される31階建て延べ5万2千平方メートルの施設で、飲食店、食品、ファッションなど310店が入る予定。

トリトンは、全国各地の味覚を集めた6階に出店。店舗面積は、標準的な道内店舗とほぼ同じ約260平方メートル。座席数はボックス席を含め72席。道内と同じ回転ずしのスタイルで、ネタは道内産を中心に使う。道内産の魚介加工食品などを扱う物販スペースも

確保する。

前田康仁社長は「世界の観光客に北海道」「オホーツクの食材の良さを伝えていける店にしたい」と話している。現在、トリトンは札幌や北見などに計11店舗ある。3月の東日本大震災後に苦境下にあった観光産業も全国的に、ようやく回復軌道に乗りつつあり、観光産業も需要低迷からようやく脱しつつあります。北海道も震災後は外国人客を中心にした観光客の減少をうけ、観光地の大規模ホテルの休業、それに伴う人員の解雇などといった影響がありました。その反面、北見でいいますと、東北地方に修学旅行を予定していた道内中学校など1500人もの修学旅行客が訪れるといった現象がありました。しかし、震災のことを考えると、なんとも複雑な気持ちであります。昨今は「ゆるキャラブーム」や「グルメブーム」など、何がブレイクするかわからず、北見市が持っている観光の潜在能力を考えれば、まだまだチャンスはあると考えております。東京北見会の皆様におかれましても、今後とも北見市の観光振興に益々のお力添えをいただければ幸いです。